

## 74. 江戸小袖に施された水文様の一考察

実践女子大 細井 起能

細江 美子

1. 江戸小袖に施された水文様は、染織技術の発達と美意識の向上によって著しい発達を遂げた。小袖文様の構成は種々の題材をモチーフとして意匠化し多種多様となっているが、中でも水文様を中心とする作品は意外に多い。そこで今回は江戸小袖に施された水文様を研究対象として取りあげ、今日のきものの文様の動向を知る端としようと思う。

2. 参考資料には、東京国立博物館、長尾美術館、川島家、野村家、各所蔵の小袖、小袖裂、並に当時代のスタイルブックともいえる小袖雛形本、誰が袖百種、花小袖、小袖と振袖等を使用する。

代表作品として、浪流水菊文様小袖、長寿の水黒綸子地小袖、白綸子地流水菖蒲文様縫絞振袖、白地流水菊藤文様小袖、鼠縮緬地曙染郭公水車曳船文様縫入小袖、紫綸子地浪に鯉文様小袖等を取りあげ、水文様の構成、色調、表現技法等の各期の相異点を比較究明する。

3. 山水及び水に花鳥を配した小袖の意匠は、当時代の全般を反映しつつ、特徴ある発達と変化を示している。それは元来我が国の生活環境や民族性を背景として生まれた日本独自のもので、今日のきものの文様が、これらの長い伝統を基調として意匠化されていることは明白である。